

# てんかん

## 原因

- ・異常な脳細胞が発する異常な電気活動によっておこる身体の不調のことです。
- ・子供のころに出現する場合と、大人になってから病気(脳卒中、脳腫瘍、脳血管奇形、認知症など)によって生じる場合のふたつがあります。

## 症状

- ・全身や身体の一部のけいれん・ピクつき、ボンヤリする、吐き気、頭痛などが発作的におこります
- ・全身けいれんの際には窒息や打撲に注意が必要です。

## 似たような症状をおこす病気

- ・不整脈、心不全、神経調節性失神、起立性低血圧も意識消失の原因になるので心臓超音波検査や心電図検査を行います。
- ・脳卒中、脳腫瘍などがてんかんの原因になることもあるので頭部 CT/MRI 検査を行います。
- ・ビデオ脳波検査はてんかんと転換性障害(ヒステリー発作)を見極めるのに有効です。
- ・脳血流 SPECT 検査、IMZ-SPECT 検査、脳の表面の脳波検査を行うこともあります。

## 治療法

- 1. 薬物療法;** 主にレベチラセタムやラモトリギンを処方します。部分発作(全身痙攣でないもの)ではラコサミドを、ミオクロニー発作ではクロナゼパムを処方することがあります。眠気、ふらつき、肝機能障害、皮膚症状、白血球減少などの副作用がでることがあります。
- 2. 手術療法;** お薬で治らない部分発作には手術が有効なことがあります。  
(神奈川県では横浜市立大学脳神経外科、聖マリアンナ医科大学病院てんかんセンターなど)
- 3. 公的補助;** 自立支援医療[精神通院医療]、高額療養費、重度心身障害者(児)医療費助成制度、健康保険の傷病手当金、小児慢性特定疾患治療研究事業、乳幼児医療費助成制度など

## 注意すべきこと

- ・自動車の運転は2年間以上発作がないかたなら条件付きで可能です。高いところや、水のそばや、駅のホームでは発作をおこすと危険ですので一人で行かないようにしてください。
- ・薬の飲み忘れ、睡眠不足、お酒の飲みすぎなどで発作が誘発されることもあります。
- ・てんかんの薬は赤ちゃんに影響が出ることがあるので若い女性の方には葉酸を処方します。

## さいごにひとこと

- ・発作症状によって治療法が異なるので目撃情報や撮影したビデオがとても参考になります。
- ・薬を飲み忘れたときはその次から決められた量を飲んでください(2倍にしないでください)。
- ・発作が続くときや発作後も長時間ぼんやりしているときは救急車を呼んでください。
- ・職場や学校で不当な扱いを受けたと思われるときには日本てんかん協会に相談ができます。

## 日本てんかん協会

〒162-0051 東京都新宿区西早稲田 2-2-8 全国心身障害児福祉財団ビル 4F

電話: 03-3202-5661 FAX: 03-3202-7235

E-Mail: [nami@scan-net.ne.jp](mailto:nami@scan-net.ne.jp) ホームページ: <http://www.jea-net.jp/index.html>

みやさきクリニック 宮崎秀健